

チャレンジする Someone NEWS

～挑戦者の履歴書

第35回

目黒伸一氏 (生態学者、国際生態学センター) —「森の復活者」「宮脇方式」の継承者

一般社団法人 洸楓座

代表理事

佐藤建吉

連載・小水力

▼自然が教科書

このコラムを書こうと、目黒伸一氏にインタビューの申し込みをした。すると、BS朝日のTV番組『パトタッチSDGsはじめてます』で、今晩、自身が放送されるという返事。何となく重なり。まずは、これを視聴することにした。TVを観ないのでTVを持たない筆者は、近くの大型家電販売店のTV売り場での立見に出掛け、最近の液晶TVは大型化しているが、昔に比べてだいぶ安価になっていく。代りに有機EL素子の大型画面TVが登場し、これはかつての大型液晶TVの値段である30万円以上。しかし短時間で、有機ELの大型TVとして商品化した技術の進歩を実感した。

「宮脇方式」のキホンのポット苗を手にする宮脇氏



自然に学ぶ最先端の森づくり

環境として求められる。エコロジーは、自然に基づく生態学である。自然は、人間が考えるよりは、単純ではあるが、その成り立ちには協働があり複雑に生きていて、単独や専業ではない、多くの樹種や生き物が関係して共同してなされている。

▼目黒氏に「ゴール

筆者の洸楓座の上総まちなか大学院では、2021年3月11日が、東日本大震災3・11の10年目になることに関係して、4月から12月まで、毎月11日に、「過現未による防災対策」という講演会を行った。過現未とは、過去・現在・未来の時世を一括して時流として考える言葉である。この講座では、津波の防災として「森の防波堤」あるいは「森の防潮堤」という宮城県や福島県、あるいは静岡県で先行している対策を、千葉県でも、想定した講座である。その講師に、目黒伸一氏をお願いした。こうして目黒氏との出会いが始まった。

目黒氏に「森の防波堤 防潮堤」の講師に、目黒伸一氏をお願いした。こうして目黒氏との出会いが始まった。初回は、6月の講座で、いすみ市大原の公民館で開催された(写真)。

目黒氏は、宮脇先生の弟子で、その時も、目黒氏は、子供たちの参加を熱く語り、その事例について述べ、いすみ市の防潮堤の建設においては以下の様な森の防波堤の構想が必要と感じた。

筆者は、千葉県いすみ市に住んでいるが、その地は九十九里海岸の外れ(南側)に位置している。その南端には太東崎灯台があり、千葉県第二の夷隅川の河口があり、後背を住宅地とする日在海岸が数キロだけ大原漁港まで続いている。いま

その沖合は、洋上風力の進んでいる。九十九里海岸の有望候補地であり、風況測定マストが6本も建っている。日在海岸には、サイクリングロードもあり、グリーン・ツーリズム向けの観光地でもある。

千葉県は、東日本大震災の経験から、九十九里海岸の北端、旭市から南へ向かって防波堤整備を策の要となっている。このような地理的、環境的背景から、「森の防潮堤」は、いすみ海岸に必要な防災対策の要となっている。特に、グリーン・ツーリズムの概念は、日常時の観光に大きく貢献するものであり、災害時だけの防波堤や防潮堤だけでは足りない視点が必要である。それは、「フェースフリー」とよばれる新しい防

目黒伸一氏は、BS朝日の番組は、S D G sを掲げて持続可能な取り組みとして、「宮脇方式」の伝承者である。目黒氏の取組や活動について教えてくれた。長野県でのスキー場で森を造ることから始まった。そのキホンとして、目黒氏が語った言葉が、「自然が教科書にすること」であった。決して派手ではない目黒氏の心情が生きている言葉である。

「自然との共生」が、目黒氏の師匠である宮脇昭(1928年1月29日〜2021年7月16日)横浜国立大学名誉教授。先生は、全国の森の現場を観察し自然の鼓動と生き様を感じ取る。経も、自然の理にかなったやり方で、その原点でやり方、結果として獲得されたのが「宮脇方式」であった。

その最も根本的なことは、常緑広葉樹の「ポット苗」を用いることである。例えば、ホームセンターなどの園芸品に使われ、販売されているポットで育てられた苗木を用いることである。ポット苗は、根がポットの中で発達しており、植樹後すぐに根を張る。樹種は、タブノキ、シラカシなどの(高木)、シロタモ、モチノキなどの(亜高木)である。2011年の東日本大震災による津波久愛からの復興に「森の防波堤や森の防潮堤」として適用することを推進した(後述)。

宮脇方式は、国内ばかりでなく熱帯雨林再生プロジェクトにも採用されていることである。ポット苗は、根がポットの中で発達しており、植樹後すぐに根を張る。樹種は、タブノキ、シラカシなどの(高木)、シロタモ、モチノキなどの(亜高木)である。2011年の東日本大震災による津波久愛からの復興に「森の防波堤や森の防潮堤」として適用することを推進した(後述)。

宮脇方式は、国内ばかりでなく熱帯雨林再生プロジェクトにも採用されていることである。ポット苗は、根がポットの中で発達しており、植樹後すぐに根を張る。樹種は、タブノキ、シラカシなどの(高木)、シロタモ、モチノキなどの(亜高木)である。2011年の東日本大震災による津波久愛からの復興に「森の防波堤や森の防潮堤」として適用することを推進した(後述)。

宮脇方式は、国内ばかりでなく熱帯雨林再生プロジェクトにも採用されていることである。ポット苗は、根がポットの中で発達しており、植樹後すぐに根を張る。樹種は、タブノキ、シラカシなどの(高木)、シロタモ、モチノキなどの(亜高木)である。2011年の東日本大震災による津波久愛からの復興に「森の防波堤や森の防潮堤」として適用することを推進した(後述)。

宮脇方式は、国内ばかりでなく熱帯雨林再生プロジェクトにも採用されていることである。ポット苗は、根がポットの中で発達しており、植樹後すぐに根を張る。樹種は、タブノキ、シラカシなどの(高木)、シロタモ、モチノキなどの(亜高木)である。2011年の東日本大震災による津波久愛からの復興に「森の防波堤や森の防潮堤」として適用することを推進した(後述)。

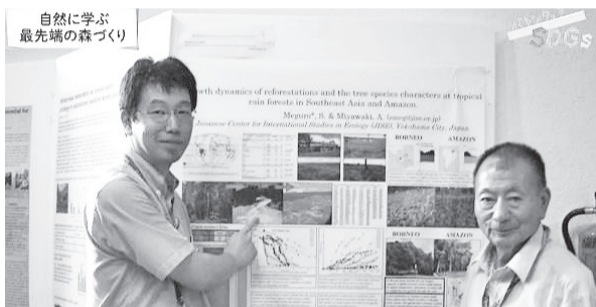
宮脇方式は、国内ばかりでなく熱帯雨林再生プロジェクトにも採用されていることである。ポット苗は、根がポットの中で発達しており、植樹後すぐに根を張る。樹種は、タブノキ、シラカシなどの(高木)、シロタモ、モチノキなどの(亜高木)である。2011年の東日本大震災による津波久愛からの復興に「森の防波堤や森の防潮堤」として適用することを推進した(後述)。

宮脇方式は、国内ばかりでなく熱帯雨林再生プロジェクトにも採用されていることである。ポット苗は、根がポットの中で発達しており、植樹後すぐに根を張る。樹種は、タブノキ、シラカシなどの(高木)、シロタモ、モチノキなどの(亜高木)である。2011年の東日本大震災による津波久愛からの復興に「森の防波堤や森の防潮堤」として適用することを推進した(後述)。



目黒伸一氏は、BS朝日の番組は、S D G sを掲げて持続可能な取り組みとして、「宮脇方式」の伝承者である。目黒氏の取組や活動について教えてくれた。長野県でのスキー場で森を造ることから始まった。そのキホンとして、目黒氏が語った言葉が、「自然が教科書にすること」であった。決して派手ではない目黒氏の心情が生きている言葉である。

師匠の宮脇昭先生と学会で発表時の目黒氏



自然に学ぶ最先端の森づくり

目黒氏は、宮脇先生の弟子で、その時も、目黒氏は、子供たちの参加を熱く語り、その事例について述べ、いすみ市の防潮堤の建設においては以下の様な森の防波堤の構想が必要と感じた。

筆者は、千葉県いすみ市に住んでいるが、その地は九十九里海岸の外れ(南側)に位置している。その南端には太東崎灯台があり、千葉県第二の夷隅川の河口があり、後背を住宅地とする日在海岸が数キロだけ大原漁港まで続いている。いま

その沖合は、洋上風力の進んでいる。九十九里海岸の有望候補地であり、風況測定マストが6本も建っている。日在海岸には、サイクリングロードもあり、グリーン・ツーリズム向けの観光地でもある。

千葉県は、東日本大震災の経験から、九十九里海岸の北端、旭市から南へ向かって防波堤整備を策の要となっている。このような地理的、環境的背景から、「森の防潮堤」は、いすみ海岸に必要な防災対策の要となっている。特に、グリーン・ツーリズムの概念は、日常時の観光に大きく貢献するものであり、災害時だけの防波堤や防潮堤だけでは足りない視点が必要である。それは、「フェースフリー」とよばれる新しい防

千葉県は、東日本大震災の経験から、九十九里海岸の北端、旭市から南へ向かって防波堤整備を策の要となっている。このような地理的、環境的背景から、「森の防潮堤」は、いすみ海岸に必要な防災対策の要となっている。特に、グリーン・ツーリズムの概念は、日常時の観光に大きく貢献するものであり、災害時だけの防波堤や防潮堤だけでは足りない視点が必要である。それは、「フェースフリー」とよばれる新しい防

【参考文献】
宮脇昭著、『瓦礫を活かす「森の防波堤」が命を守る―植樹による復興・防災の緊急提言』、学研新書(2011年)